

牛乳・乳製品



◆飼養動向

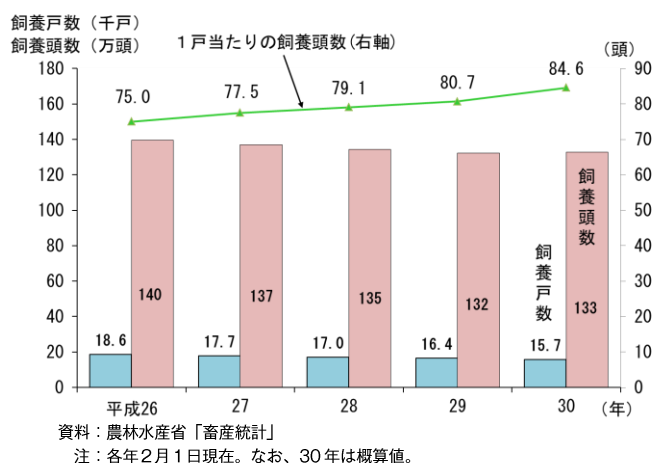
30年2月現在の乳用牛飼養頭数、0.4%増

乳用牛の飼養頭数は、近年、減少傾向で推移してきた。しかしながら、畜産クラスター事業などさまざまな取り組みの効果もあり、平成30年2月は132万8000頭（前年比0.4%増）と前年に比べ5000頭増加し、平成14年以降、16年ぶりに増加に転じた。

飼養戸数は、酪農家の高齢化や後継者不足などによる離農の進行から、前年を700戸下回る1万5700戸（同4.3%減）とやや減少した。

この結果、同年の1戸当たり飼養頭数は、前年を3.9頭上回る84.6頭（同4.8%増）となった（図1）。

図1 乳用牛の飼養戸数および飼養頭数



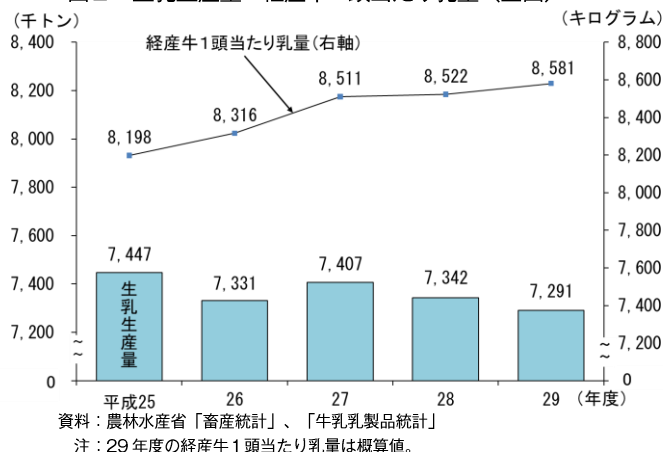
◆生乳生産量

29年度の生乳生産量、0.7%減

生乳生産量は、平成8年度の約870万トンピークに、主として都府県での減少により、おおむね減少傾向で推移してきた。27年度は、北海道を中心に生乳生産量が増加したことなどにより3年ぶりに増加に転じたものの、28年度は再び減少に転じ、29年度は飼養頭数の減少などを背景に729万809トン（同0.7%減）と2年連続で減少した。

一方、経産牛1頭当たり乳量を見ると、29年度は8581キログラム（同0.7%増）と6年連続で増加した（図2）。

図2 生乳生産量・経産牛1頭当たり乳量（全国）

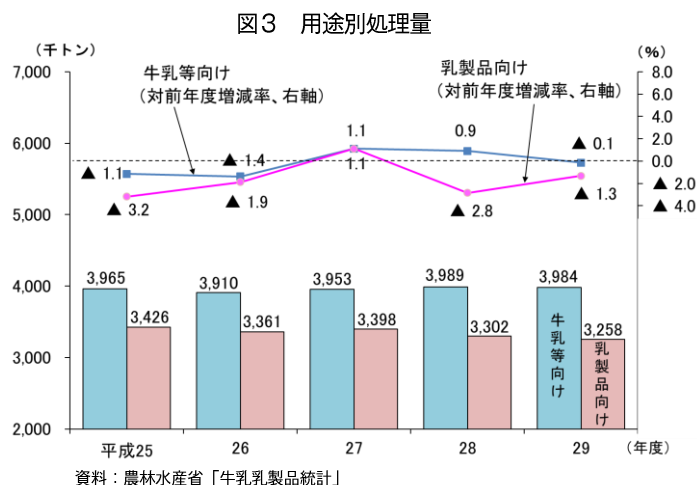


◆牛乳等向け処理量

29年度の牛乳等向け処理量、前年度並み

生乳の牛乳等向け処理量は、消費動向を反映して推移している。近年は、少子高齢化やその他飲料との競合などから消費が伸び悩んでおり、平成6年度の約526万トン进行ピークに14年度以降、12年連続で減少した。しかし、27年度は好調なはっ酵乳需要などを受けて増加に転じ、28年度は年初にテレビ報道などで牛乳の健康面での効果について取り上げられたこともあり、2年連続で増加した。29年度は健康志向の高まりなどにより、引き続き、牛乳需要が好調に推移したことから、398万3997トン（前年度比0.1%減）と前年度並みとなった（図3）。

また、29年度の国内生産量に占める牛乳等向け処理量の割合（市乳化率）は54.6%と、前年度より0.3ポイント上昇した。



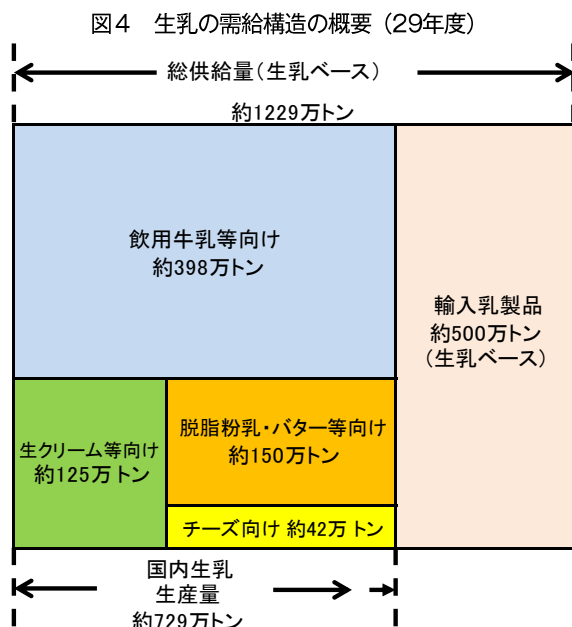
◆乳製品向け処理量

29年度の乳製品向け処理量、1.3%減

生乳生産量が減少傾向で推移する中、乳製品向けについては、脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量が低下する一方で、生クリームなどの液状乳製品向けが順調に拡大していることから、ほぼ横ばいで推移している。

29年度は、前年度に引き続き、生乳生産量の減少に加え、健康志向などを背景に牛乳等向け処理量が前年度並みとなったことから、325万8009トン（前年度比1.3%減）と2年連続で減少した（図3）。29年度の乳製品向け処理量のうち、脱脂粉乳・バター等向けは約150万トン、生クリーム等向けは約125万トン、チーズ向けは約42万トンとなった。

この結果、同年度の総供給量は、国内生乳生産が約729万トン、輸入乳製品（生乳ベース）が約500万トンを合わせた約1229万トンとなった（図4）。



資料：農林水産省「畜産をめぐる情勢」

注1：四捨五入の関係で、必ずしも計が文中の数字と一致しない。

注2：国内生乳生産量の中には、このほか自家消費などに仕向けられたものがある。

注3：生クリーム等向けは、生クリーム・脱脂濃縮乳・濃縮乳に仕向けられたものをいう。

◆脱脂粉乳

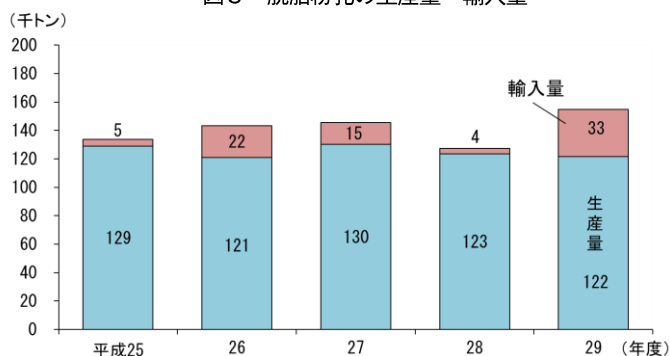
29年度の期末在庫量は35.2%増、大口需要者価格は2.1%高

平成29年度の脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量の減少や堅調な牛乳等向け需要などを背景に、脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量が減少したことなどから、12万1581トン（前年度比1.6%減）と2年連続で減少した。

同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、堅調な需要やEUの在庫増による世界的な脱脂粉乳価格の弱含みを背景に、3万3207トン（同849.7%増）と大幅に増加した（図5）。

なお、機構は29年度、カレントアクセス分の1万3000トンに加え、追加輸入分として2万1000トンの脱脂粉乳の輸入契約を締結した。

図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量



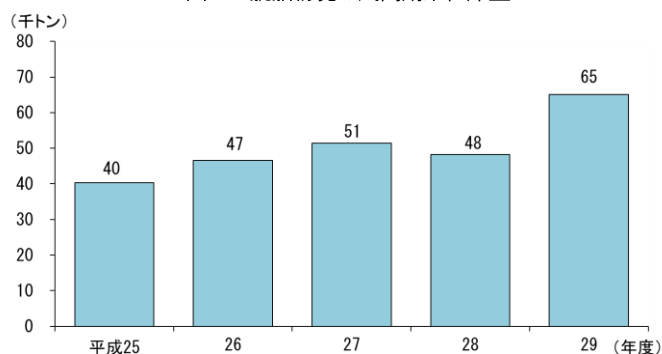
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：輸入量は機構輸入分のみ。

同年度の推定出回り量は、輸入量の増加などを背景に、14万303トン（同2.6%増）とわずかに増加した。

この結果、同年度の民間期末在庫量は、6万5145トン（同35.2%増）と大幅に増加した（図6）。

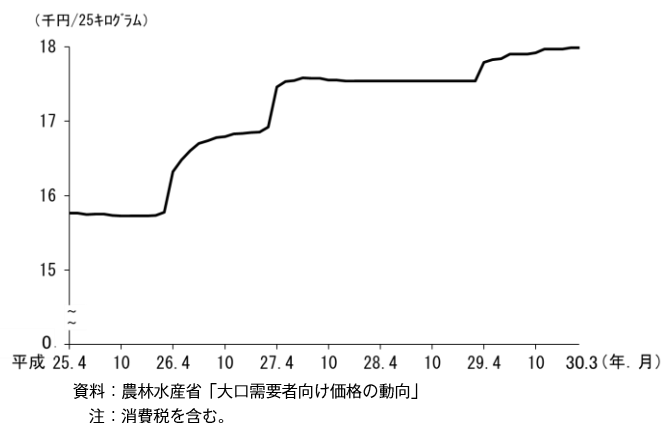
図6 脱脂粉乳の民間期末在庫量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独) 農畜産業振興機構調べ

脱脂粉乳の大口需要者価格は、25年4月以降、おおむね横ばいで推移していたが、26年度は消費増税や乳価の引き上げなどから上昇傾向で推移した。27年4月は、乳価の引き上げなどから上昇し、その後、おおむね横ばいで推移したものの、29年度は4月の乳価の引き上げなどから上昇し、25キログラム当たり平均1万7912円（同2.1%高）となった（図7）。

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」

注：消費税を含む。

◆バター

29年度の期末在庫量は6.1%減、大口需要者価格は1.4%高

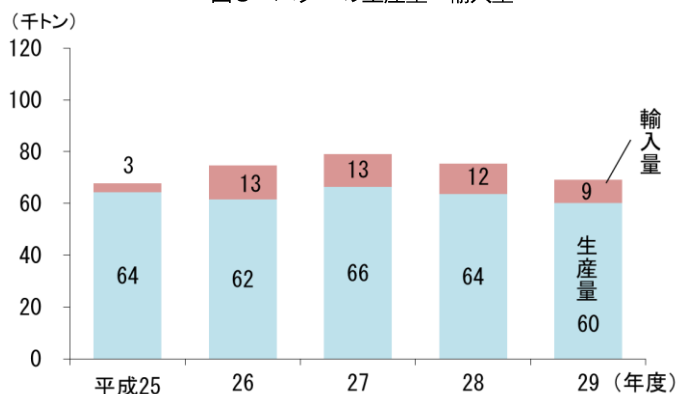
平成29年度のバターの生産量は、脱脂粉乳と同様に、脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量が減少したことなどから、6万86トン（前年度比5.5%減）とやや減少した。

同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、世界的な乳脂肪需要の高まりを背景に国際相場が上昇したため、9116トン（同22.6%減）と大幅に減少した（図8）。

なお、機構は29年度、追加輸入分として1万1877トンのバターの輸入契約を締結した。

バターの大口需要者価格は、脱脂粉乳と同様、25年4月以降、おおむね横ばいで推移していたが、26年度は消費増税や乳価の引き上げなどから上昇傾向で推移した。27年4月は、乳価の引き上げなどから上昇し、その後、おおむね横ばいで推移したものの、29年度は4月の乳価の引き上げなどから上昇し、1キログラム当たり平均1374円（同1.4%高）とわずかに上昇した（図10）。

図8 バターの生産量・輸入量

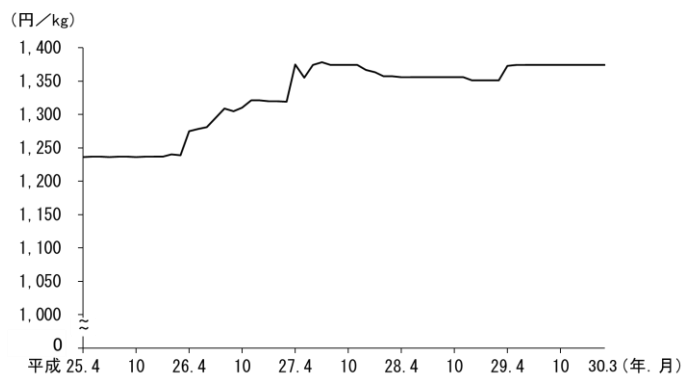


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注：輸入量は機構輸入分のみ。

同年度の推定出回り量は、生産量および輸入量の減少などを背景に、7万1012トン（同3.0%減）とやや減少した。

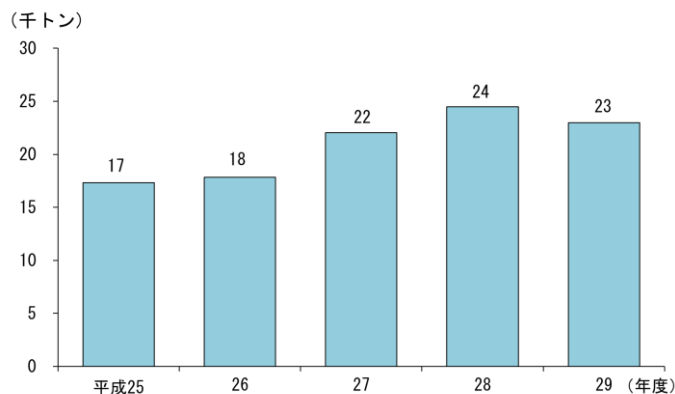
この結果、同年度の民間期末在庫量は、2万2985トン（同6.1%減）とやや減少した（図9）。

図10 バターの大口需要者価格



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」
注：消費税を含む。

図9 バターの民間期末在庫量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独) 農畜産業振興機構調べ

◆チーズ

29年度の総消費量、5.3%増

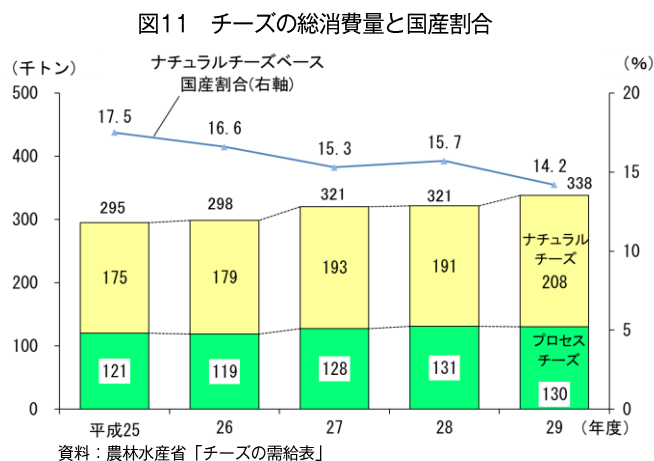
チーズの総消費量

チーズの総消費量は、家飲みや外食需要の増加などを背景に、増加傾向で推移している。

平成29年度のナチュラルチーズ消費量は、国産ナチュラルチーズ生産量が減少したものの、輸入ナチュラルチーズ量が増加したことから、20万8067トン（前年度比9.1%増）とかなりの程度増加した。

一方、プロセスチーズ消費量は、13万2777トン（同0.4%減）とわずかに減少した。

この結果、ナチュラルチーズとプロセスチーズを合わせた総消費量は33万8344トン（同5.3%増）となった（図11）。

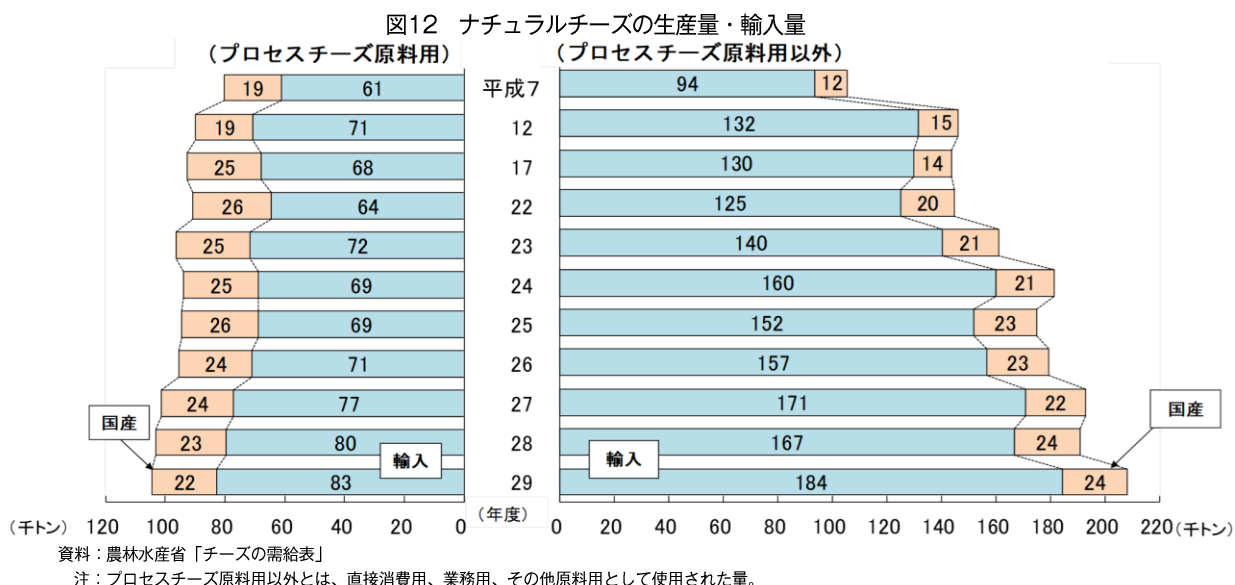


ナチュラルチーズの生産量・輸入量

平成29年度のナチュラルチーズの輸入量（プロセスチーズ原料用+プロセスチーズ原料用以外）は、26万6980トン（前年度比8.3%増）とかなりの程度増加した。

内訳を見ると、プロセスチーズ原料用は8万2663トン（同3.6%増）とやや、プロセスチーズ原料用以外は18万4317トン（同10.6%増）とかなりの程度、いずれも増加した（図12）。 国産ナチュラルチーズの

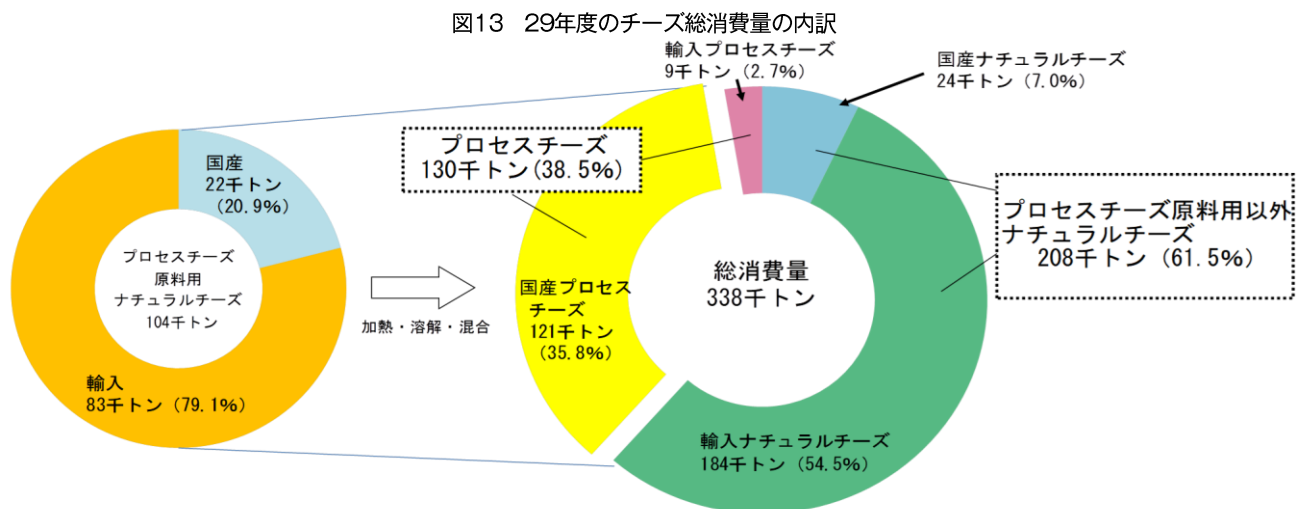
生産量（プロセスチーズ原料用+プロセスチーズ原料用以外）は、需要の増加を背景に増加基調で推移していたが、29年度は好調な牛乳需要を背景にチーズ向け生乳処理量が減少したことから、4万5535トン（同3.8%減）とやや減少した。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が2万1785トン（同6.7%減）とやや、プロセスチーズ原料用以外が2万3750トン（同0.9%減）とわずかに、いずれも減少した。



チーズ総消費量の内訳

平成29年度のチーズ総消費量に占める国産チーズの割合は、国内生産量が減少した一方、輸入チーズが増加したことから14.2%（ナチュラルチーズベースに換算した場合の自給率）となり、前年度より1.5ポイント低下した。

また、プロセスチーズ原料用のナチュラルチーズに占める国産の割合も、20.9%と前年度より1.7ポイント低下した（図13）。



資料：農林水産省「チーズの需給表」

注1：プロセスチーズ原料用以外とは、直接消費用、業務用、その他原料用として使用された量。

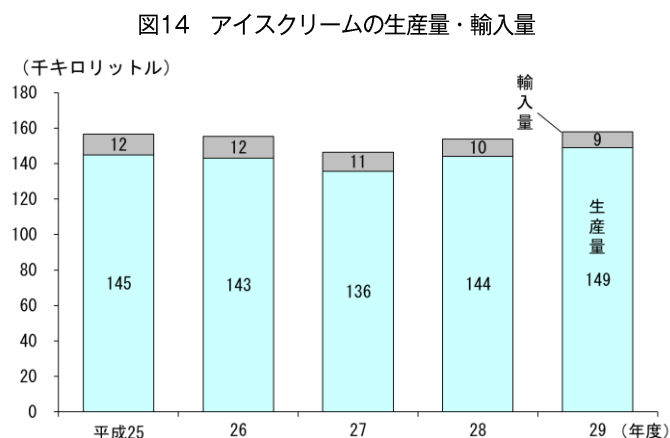
注2：四捨五入の関係で、必ずしも合計値が文中の数字と一致しない。

◆アイスクリーム

29年度の生産量、3.3%増

アイスクリームは、近年、季節に応じて乳脂肪分や風味を変えるなどの企業努力による豊富な品揃えなどにより、消費者の購買頻度が高まっている。平成29年度の生産量は、14万8963キロリットル（前年度比3.3%増）と2年連続で増加した。

一方で、同年度の輸入量は、国内の生産量が増加したことなどから、8838キロリットル（同9.1%減）とかなりの程度減少した（図14）。



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」

注：輸入量は、1トン=1.455キロリットルで換算。